

令和6年度 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築を考える研修会

20240220 佐久大学人間福祉学部 江間由紀夫

・ウォーミングアップ：地域の好きな場所を教えてください

研修中、右のQRコードから佐久圏域の好きな場所、おすすめの場所をお教えてください。
ある程度まとまったら皆さんと共有したいと思います。



1. 昨年度の研修テーマから一歩進んで考えてみよう

* 「協議の場」の先にあること-これから何をしたら良い？

昨年度の研修では、「にも包括」の構築推進事業の中で必須とされていた「協議の場の設置」に関して、架空の街を舞台としたロールプレイを行いました。協議の場が関係機関や当事者、家族、ピアサポーターなど様々な人がお互いに話し合い、地域の側からボトムアップで精神保健に関する仕組みを考えていく重要なものであることが確認できたと思います。

しかし2023年に構築推進事業の内容が変更され「協議の場の設置」は「精神保健医療福祉体制の整備に係る事業」の中に吸収されてしまいました。今年度は、次のステップとして、協議の場の活動から実際の体制整備に向けて進んでいく段階を考えてみましょう。

【事業内容】（1のうち協議の場の設置は必須とする）

1. 精神保健医療福祉体制の整備に係る事業
2. 普及啓発に係る事業
3. 住まいの確保と居住支援に係る事業
4. 当事者、家族等の活動支援及びピアサポートの活用に係る事業
5. 精神医療相談・医療連携体制の構築に係る事業
6. 精神障害を有する方等の地域生活支援に係る事業
7. 地域生活支援関係者等に対する研修に係る事業
8. その他、地域包括ケアシステムの構築に資する事業

図1. 厚生労働省による現在の構築推進事業の内容

2. 「にも包括」とは何か？

* 地域包括ケア「システム」であることの意義

国が示している「にも包括」の図の中に書かれている具体的な機関や福祉サービス等の多くは、すでに地域に存在しているものです。にも包括の正式名称は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」であり、システムには「全体を統一する仕組み」という意味と「お互いに作用し合う要素の集合体」という意味があります。「地域包括ケア」を「システム」としているのは、ケアを提供する様々な資源（要素）がバラバラに活動するのではなく、お互いに関わり合いながら活動することで同じ目的（地域包括ケア：地域で安心して暮らせる体制）を達成する仕組み（システム）を目指していることを示しています。

つまり「にも包括」の図の中で注目すべきなのは、一つ一つの要素ではなく、要素をつなぐ矢印の部分と全体を囲んでいる枠組みの部分であり、新たな組織やサービスを作るのではなく、地域にある様々な資源がシステムとして機能する仕組みを構築することが求められていると考えられます。

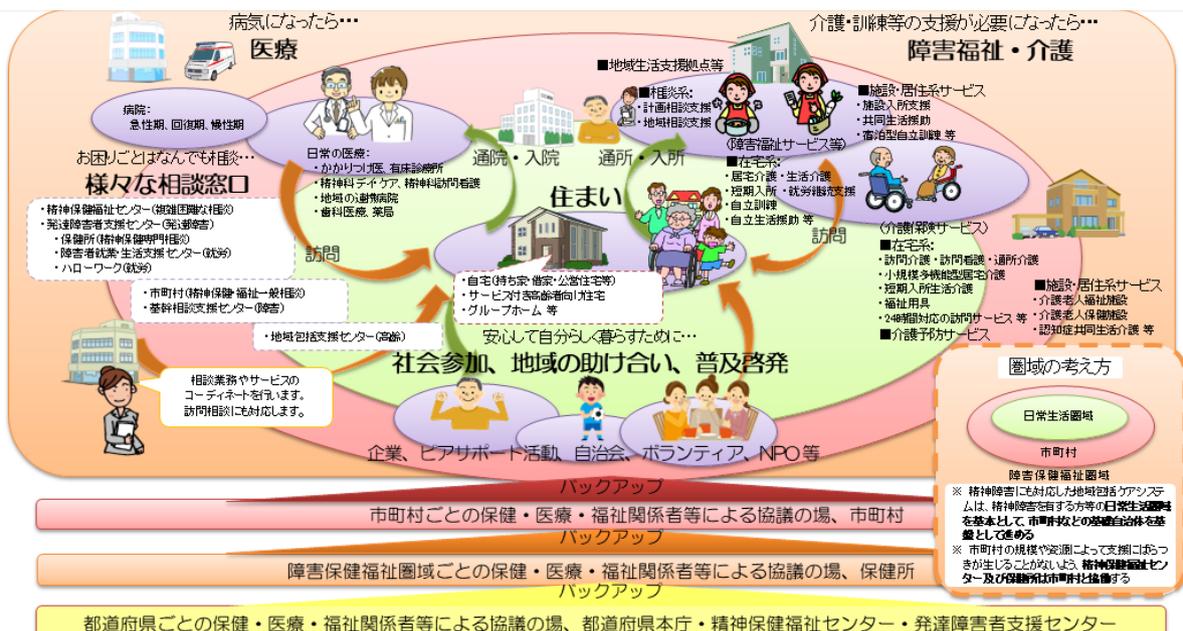


図2. 厚生労働省が示した「にも包括」のイメージ図

3.演習（グループワーク）「にも包括」をコミュニティのリフォームとして考えてみよう

* 「にも包括」を地域の精神保健福祉システムのリフォームと考える

先述の通り図2の中には、よく見るとあまり目新しいことは描かれていません。要素となる資源の多くはすでに地域に存在していますし、それぞれの連携も各地で協議会等の活動により取り込まれていることと思います。しかし未だ精神科病院の長期在院の問題は解決していませんし、地域のメンタルヘルスの問題は拡大しつつあります。では、「にも包括」で何を行なったら良いのでしょうか？

私は「にも包括」のシステムとしての部分をどう活性化していくかがポイントではないかと考えています。そこで今回の研修では、「にも包括」を新たなシステムとは考えず、現在のシステムのリフォームととらえてみました。家のリフォームに例えてみたのは、手をつけなければならない優先度が測りやすいことと、予算など現実的な問題を考えやすいからです。佐久圏域の精神保健福祉システムを1軒の家に例えてみて、古くなっているところや使いづらいところを予算の範囲で改善していく方法を皆さんと考えてみたいと思います。グループのユニークな発想で身近な地域という家を快適にするリフォーム計画に取り組んでみましょう。（詳細はワークシートを参照下さい）

<考えるためのヒント>

- ・家はシステムとして機能しています：ご自分の家を思い浮かべてください。各部屋ごとに機能（くつろぐ、寝る、料理する・食べる、清潔を維持するなど）があり、家に住んでいる人によって機能が維持されたり改善されて住みやすくなっています。また壁や屋根は、人を外から守ってくれますが適切なメンテナンスを必要とします。家は、人が住むことによってシステムとして機能しているのです。
- ・リフォーム？：今住んでいる家のリフォームを行うとしたら、どこから手をつけたら良いでしょうか。判断基準としては、緊急度とコストの問題が考えられます。すぐに手をつけるべき課題は何か、お金や手間をどのくらいかけられるか、現実的な問題として考えることで「何をどこから手をつけるか」が考えやすくなります。
- ・地域を家ととらえてみる？：ここで考えていただく家は、地域の「にも包括」のシステムです。家が持つ機能を地域に置き換えて考えてみましょう。土台や基礎は、地域社会の基盤のあり方につながりまますし、柱や壁、屋根は住民を守る法律や制度につながります。各部屋を福祉サービスや医療など地域の資源と考えて、廊下や扉を人や情報の流れる場ととらえてみます。玄関や表札は、地域の他の人たちとのつながりやすさに関わってきます。
- ・頭を柔らかくして取り組んでください：いきなり「地域を家として考える」といわれても「??」と感じられると思います。いろいろ疑問は浮かぶことと思いますが、とりあえずグループの方々と話し合ってみてください。他の地域での研修や今回のスタッフでのリハーサルでは、最初の15分ぐらいはみなさん戸惑っていたようでした。しかしその後はどんどんいろんなアイデアが出てきて、ユニークな地域のリフォーム案が誕生しています。あまり難しく考えず、楽しんで取り組んでください。

4.まとめ：ボトムアップで考える「にも包括」

「にも包括」がわかりにくい理由の一つは、「にも包括」の具体的な制度や活動の形が明確には示されておらず、システムの概要を描いた図（図2）と「にも包括」という考え方を各地で様々な解釈して取り組んでいる実践が紹介されているだけになっていることがあるかと思います。

しかしこのことは、国が大枠を決めてはいるけれど、実際のシステム構築は各地域の特色に合わせて実施できるということでもあります。従来の福祉サービスは国が制度を決めて各地域が実施するトップダウンの形式でしたが、「にも包括」を地域の側からその地域に適した具体的な活動を生み出していくものとしていき、各地でそうした活動を共有することができれば、地域からボトムアップの形で精神保健福祉を変えていく力となるかもしれません。トップダウンで国や県に従うばかりではなく、ボトムアップで地域から社会そのものに働きかけていくことができたらちょっと面白そうです。本研修が、そんな活動につながる一歩となればと思います。

*研修へのご参加ありがとうございます。研修中に感じた疑問や感想などご自由に記入できるページを用意してあります。よろしければ右のQRコードからアクセスしてご利用ください。

